

修士課程修了時の能力評価(助産)

学籍番号( )氏名( )

それぞれの評価指標について該当する到達度の欄に○をつけてください。

DP	修士課程修了時の能力評価指標(助産)	到達度(自己評価)			
		4 100~80%	3 79~60%	2 59~40%	1 40%未満
1. 人間の尊厳と権利を擁護する倫理観をそなえた看護専門職として課題を探究する能力を有している。					
①	看護実践における倫理的問題に対し、倫理や法に関する知識を活かし、解決策を述べることができる。				
②	対象が主体的に意思決定できるよう支援するプロセスや方法を述べる ことができる。				
③	対象の権利を擁護する立場から、倫理的な看護実践の普及に ついて述べるができる。				
2. 多様でグローバルな健康課題を学際的な視点から捉える能力を有している。					
①	グローバルな視点で個人・家族・コミュニティの持つ健康課題を とらえ、述べるができる。				
②	他学問領域の研究にも視野を広げ、健康課題を学際的に分析 統合し把握することができる。				
3. 看護学の発展に貢献する研究に取り組む能力を有している。					
①	実践の中でとらえた現象や経験を意味づけ、既存研究を踏ま えてリサーチクエストへと発展させることができる。				
②	専門領域の文献のクリティークを通して、研究の方向性を定め ることができる。				
③	リサーチクエストや研究目的に基づいて研究手法を選択す ることができる。				
④	各々の研究課題に対して実施可能な研究計画書を作成するこ とができる。				
⑤	研究倫理の考え方に基づいて研究者の責任を遵守し、研究を 遂行することができる。				
⑥	研究結果を論文としてまとめることができる。				
4. 看護専門職として研究の成果を社会に還元する能力を有している。					
①	研究成果を実践・教育・管理に活かすための方策を導き出すこ とができる。				
②	研究成果を社会に公表するための計画を立案し、着手するこ とができる。				
5. 保健医療福祉に関連した社会的ニーズに的確に対応するために、多職種と協働し、看護専門職として の役割を発揮する能力を有している。					
①	健康課題を解決するために多職種との連携・協働について考 えることができる。				
②	健康課題に対し適切なチームアプローチ方法を選択するこ とができる。				

DP	修士課程修了時の能力評価指標(助産)	到達度(自己評価)			
		4 100～80%	3 79～60%	2 59～40%	1 40%未満
6. 人の一生における性と生殖をめぐる健康・権利を守る援助ができる能力を有している。					
①	ライフステージ各期の性と生殖の健康問題に対する援助方法を述べることができる。				
②	受胎調節を含む家族計画に関する援助ができる。				
7. 妊娠・分娩・産褥・新生児期が安全に経過するように、根拠に基づいて助産ケアを実践できる能力を有している。					
①	妊婦と家族の健康状態について診断し、必要なケアを実践できる。				
②	産婦と家族の健康状態及び分娩進行状態について診断し、安全に分娩介助を実践できる。				
③	産婦と新生児及び家族の健康状態について診断し、必要なケアを実践できる。				
8. 助産管理の視点を持ち、地域の社会資源の活用や多職種との連携ができる能力を有している。					
①	病院・診療所・助産所など場に応じた助産管理について述べる ことできる。				
②	助産師の役割や責務を自覚し、助産に関する課題についての 改善策を述べることできる。				
③	地域の周産期医療システムをふまえた多職種との連携のあり 方について述べることできる。				

## 修士課程修了時の能力評価に対するご意見

能力評価指標による自己評価は、初めての試みです。自己評価をするにあたり、表現や内容の解釈等の点で、分かりづらい、判断に迷うなどのご意見をいただきたいと思います。ご意見がありましたら、「評価指標番号」と「ご意見」を以下に記述してください。ご協力をよろしくお願いいたします。

学籍番号(

)氏名(

)

--